

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 技術・家庭（家庭）第34号

－中学校，特別支援学校対象－

平成21年5月発行

### 和服の基本的な着装を取り入れた学習指導の在り方

平成20年1月の中央教育審議会答申では、教育内容に関する主な改善事項の一つとして「伝統や文化に関する教育の充実」が挙げられ「技術・家庭科」においては、「衣食住にわたって伝統的な生活文化に親しみ、その継承と発展を図る観点から、その学習活動の充実が求められる。」と明記されている。

そして、新学習指導要領では技術・家庭（家庭分野）において「C 衣生活・住生活と自立」の(1)衣服の選択と手入れの項目で「和服の基本的な着装を扱うこともできる。」と示された。しかし、和服の着装について、生徒は雑誌やテレビなどの影響で興味をもっているが、指導する教師側に和服について十分な知識がなかったり、着装に不慣れであったりすることや、学校では道具の調達が難しいことなどの課題がある。

そこで、本稿では中学校で衣生活の指導を充実させるために和服の着装を取り入れた学習指導の基本的な考え方、和服の特徴、着装のポイント、和服の着装指導の工夫、着装の学習指導の展開例について述べる。

#### 1 和服の着装を取り入れた学習指導の基本的な考え方

前述した通り、「和服の基本的な着装」については伝統的な生活文化に親しみ、その継承と発展を図ることがねらいであるが、衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できるようにすることが基本である。

そこで、和服の着装を取り入れて指導する際は、洋服との比較や和服の基本的な着方を調べたり体験したりすることが大切である。和服の着装を取り入れることの長所として次のものが考えられる。

- 洋服と和服の着方の違いに気付かせやすい。（右前・左前の打ち合わせ、おはしよりと対丈、帯による固定、動きやすさ、履き物）
- 構成の違いに気付かせやすい。（平面構成と立体構成、衣服の部位の名称）
- 地域に伝わる織物や衣服の着方について関心をもたせやすい。
- 浴衣などの和服の基本的な着装は、国際交流の場で活用させやすい。

#### 2 和服の特徴

着装指導を効果的に行うためには、着装箇所を理解しておくことが大切である。そのために、和服の特徴の中でも、特に構成と名称、男女による違いについて述べる。

図1は、和服の基本形である、ひとえ長着の構成と名称を示している。

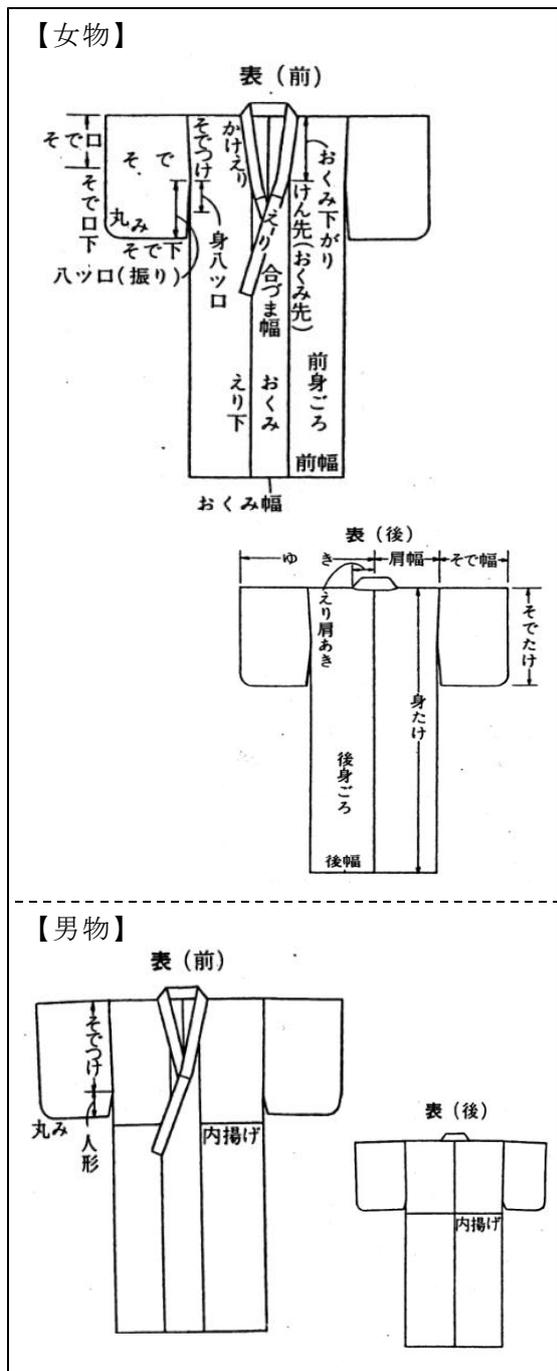


図1 ひとえ長着の構成と名称

(出典:『家庭科図解集』,教育図書,1980)

和服の女物と男物には、着丈、そで、えり先、あきの部分に違いがあり、詳細については次の通りである。

- ア 着丈は、女物は男物より長い。〔ウエスト位置に余分な布をたたみ込む「おはしより」をつけるため、男物にはない。男物の丈は対丈〕
  - イ 帯で隠れる部分は、女物に「おはしより」があり、男物には内揚げがある。〔縫い直しと着回しのため〕
  - ウ そでは、女物には振りの部分があり、男物には人形とよばれる部分がある。振り与人形の違いは、そでを身ごろに全部縫いつける(人形)、一部分を縫い残す(振り)の違いである。〔振りは軽やかさ華やかさを表現することから女物のみ〕
  - エ そでつけは、女物は短く、男物は長い。〔女物の帯の位置はウエスト、男物は腰の位置に締めるため〕
  - オ 身八ツ口は女物にはあり、男物にはない。〔おはしよりに関係があり、おはしよりがあると余分な布を折り上げて着るので、折り上げた布を身八ツ口から手を入れて整理するため〕
  - カ えり先は、女物は芯を入れないが男物には入れる。〔男物は固く強い雰囲気表現するため〕
- ※ [ ] は理由を示している。

### 3 着装のポイント

着装において一番留意すべきことは、丈や幅にある余分な布を十分に整理して人体に沿わせ着崩れしないようにすることである。詳細については以下の通りである。

#### 【浴衣】

- ◎ えりの合わせ具合はいいか。詰まったり、開きすぎたりしていないか。
- ◎ おきみ線は、一直線になっているか。
- ◎ 上前幅は右脇に合っているか。
- ◎ すそはくろぶしが見える程度か。
- ◎ つま先は上がっているか。
- ◎ 背中にしわはないか。
- えりと首の間には、握り拳ひとつ程度の隙間があるか。(衣紋を抜いているか。)
- 衣紋を抜かないでいるか。

#### 【帯】

- ◎ 結び目はゆるんでいないか。
- 帯の結び目は背中を中心きているか。
- 帯はゆるくないか。
- 羽根(後の帯を広げた部分)の形は整っているか。
- 帯は前下がりになっているか。
- 帯の結び目の位置は、背中を中心より左右どちらかにずれているか。

図2は男女の着装後の全体図を示している。帯を締める前の段階で、丈や幅にある余分な布を十分に整理しておくことで着崩れがしない。手順については、DVD等の視聴覚機器を用いて確認をしておくといよい。な

お、帯の結び方について慣れないときは男女とも締めやすい兵児帯<sup>へこおび</sup>を用いるとよい。



図2 着装が完成した姿

(出典:『家庭科図解集』,教育図書,1980)

#### 4 和服の着装指導の工夫

和服の着装を授業で体験させるためには道具がない、時間がかかるなどの課題がある。ここでは、その課題を解決するための教具の工夫等について紹介する。

##### (1) 教具の工夫

ア ヒトエ長着・・・男女とも浴衣などのひとえ長着を準備する。サイズに関係なく着用出来るので借用することも可能である。

イ 帯・・・半幅帯、角帯、兵児帯などが結びやすく適している。特に兵児帯は柔らかいので生徒には扱いやすい。

ウ 腰ひも・・・ひとえ長着を着用者の身体に着せ付けるために一般的には腰ひもを用いるが、不要になったストッキング等を切って用いても伸縮性があるので結びやすい。

エ 帯板・・・正面から見たときに帯にしわが出来ないようにするために帯板を用いるが、厚紙で作ってもよい。

##### (2) 教具の作成

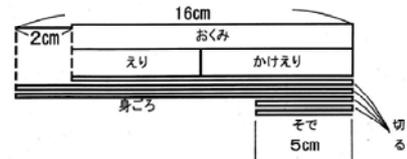
実際の反物1/10の紙(表と裏の柄の異なるもの)を用いて、実際に作成するときの要領で折り積もりをし、切って各部を台紙に貼り、雛型を作成する。着装のシュミレーションに役立ち実際の体験に要する時間短縮に効果がある。

##### ア 折り積もり

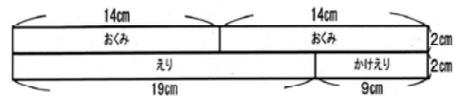
材料 4cm×120cmの紙(1枚)

台紙, はさみ, のり

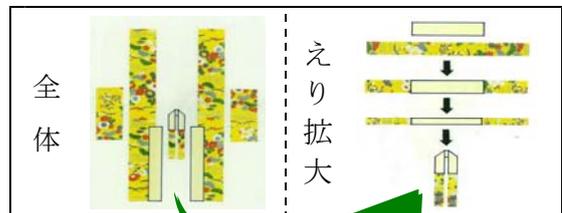
##### 折り方



##### おくみとえりの部分



##### イ 雛型作成



#### 5 着装の学習指導の展開例

ここでは、着装指導の中に和服の基本的な着装を取り入れた指導計画例と展開例を紹介する。

##### (1) 指導計画例

【指導計画】		全10時間	
〔衣生活の自立をめざすとともに伝統文化にもふれよう。〕			
主 題	新学習指導要領	時間	
1 衣服の役割と慣習や目的に応じた着装を考えよう。	C(1)ア	2	
2 日常着の洗濯と手入れを学ぼう。	C(1)イ, ウ	2	
3 不要になった衣服や布を利用して、生活を豊かにするものを製作しよう。	C(3)ア D(2)ア	6	

※ 和服の着装部分は

## (2) 指導上の留意点

本時の展開において次のア～キについて留意することが大切である。

- ㉗ 地域の人々の衣生活についての知恵と工夫を理解させるために本県の織物を紹介する。
- ㉘ 立体構成と平面構成の違いを理解させるために自校の制服と浴衣を例に指導する。
- ㉙ 和服の着装がイメージしやすく、着装がスムーズに行えるように紙の雛形を教具に用いる。
- ㉚ 腰ひもなど保護者から借用するなど負担を少なくするよう配慮する。
- ㉛ 着装の体験は班ごとに行うことで、少ない教具と短い時間で基本的な着装のポイントを理解させる。
- ㉜ 視聴覚機器を用いることで、具体的に着装のポイントを理解させる。
- ㉝ 日常への実践を図るために、体育祭や夏祭りなどの行事に生かすことを助言する。

## (3) 展開例

### 【本時の実際】

- (1) 主題 衣服の役割と慣習や目的に応じた着装を考えよう。(本時1,2/10時間)
- (2) 目標
  - ① 衣服の役割やコーディネートについて説明できる。〔知識・理解〕
  - ② 立体構成と平面構成の違いを説明できる。〔知識・理解〕
  - ③ 和服の基本的な着装を通して、目的に応じた美しい着こなしのための手順やポイントを説明できる。〔知識・理解〕
  - ④ 学習したことを日常生活に生かそうとする。〔関心・意欲・態度〕
  - ⑤ 伝統文化について関心をもつことができる。〔関心・意欲・態度〕
- (3) 準備するもの
  - いろいろな種類の衣服（自校の制服、体育服等）
  - 和服の試着各班感想記入表（黒板掲示用）、付箋紙
  - 着装の完成図（各班にカラーコピーをして配布）
  - 紙で作った浴衣の折り積もりと雛形の実物標本
  - 浴衣、帯、腰ひも、帯板、色画用紙、デジカメ

### (4) 指導の展開

過程	学習内容と学習活動	指導上の留意点
導入 (15分)	1 学習内容に興味をもつ。	○ いろいろな種類の衣服（自校の制服、体育服、洋服、和服）を見せて衣服のイメージについて発表させる。
	2 学習目標を確認する。 衣服の役割と慣習や目的に応じた着装を考えよう。	○ 見直しをもって学習させるために題材全体の見直しと本時の目標と学習過程について説明する。
展開 (75分)	3 衣服の役割を知る。 ・衣服の役割について発表する。 ・発表した結果を社会生活上の役割、保健衛生上の役割に分類する。	○ 制服や体育服等、生徒が持っている衣服を例に指導する。 ○ 提示した衣服の役割について配布した付箋紙に記入させ、集める。 ○ 生徒の代表に、付箋紙を内容事に分類させる。
	4 衣服を着るときはTPOを考へることが大切であることを知る。	○ 衣服は人間だけがもつ文化であり、着装の仕方によって教養や人間性が表れることを理解させる。
	5 自分らしい着装を考える。 ・自分に似合う色や柄を知る。 色画用紙を目下置く。 大ききの異なる柄の布を上半身に置く。(水玉、縞等)	○ 色や柄によって与える印象が異なり、人それぞれに似合う色や柄の大ききがあることを理解させる。 ○ 生徒の代表に確認させる。 ○ 日本には色重ねや四季を生かした柄があることにもふれ日本の伝統・文化に関心をもたせる。 ○ 郷土の織物にもふれる。(ア) (大島紬、芭蕉布、芙蓉布、葛布)

6	衣服の構成と名称を知る。 ・洋服(制服)と和服(浴衣)を比較する。(ア) ・浴衣については実物にふれたり、紙で作られた雛形を参考にする。 ・和服の基本的な着装をイメージする。	○ 立体構成と平面構成について理解させる。 ○ 各班に分かれて、実際に浴衣にふれさせる。 ○ 折り積もりの仕方を師範し、雛形を見せることで、和服の構成と名称を理解させ、着装のイメージをもたせる。(ウ)
7	和服の基本的な着装を体験する。 ・班に分かれ、事前に決めておいたモデルに、みんなで協力して自由に着せ付ける。(オ) ・気付いたこと(着心地、動きやすさ、見た目)を班でまとめ発表する。 ・和服の基本的な着装の手順とポイントを知る。 ・モデルに、みんなで協力して美しく着せ付ける。 ・ゆかたを着たところをデジカメで記録し、美しい着装とはどういうことかを理解する。(カ) ・片付け	○ 浴衣、帯、ひもの調理は事前に保護者に相談して協力してもらう。(イ) ○ 班は男女別にし、モデルには夏の体育服を着けさせておく。 ○ 黒板に試着各班感想記入表を貼り、生徒の意見を整理する。 ○ 着装の完成図を見せながら手順について説明し、美しい着こなしのポイント(打ち合わせ、おはしよりと対丈、帯による開穿、履き物)を指導する。 ○ 各グループを巡回し、指導助言をする際は、可能であれば地域人材(祖父母、保護者等)を活用する。 ○ 指導者がグループごとにモデルを撮る。(前後の姿) ○ 協力して片付けをさせる。
8	本時のまとめをさせる。	○ 本時の目標について復習し、ノートを集める。
9	本時の学習を振り返り、実践への意欲をもつ。	○ 地域の行事や学校行事に生かすよう助言をする。(キ)
10	次時の学習について確認する。	○ 本時で撮影した浴衣の着装を写真で確認し、感想を発表させることを予告する。 ○ 次時は、日常着の洗濯と手入れについて学習することを予告する。

※ ア～キは左頁で述べた指導の留意点を表している。

今回は2時間続きの展開例を示したが、

1時間ずつ実施する場合は学習内容の「和服の構成と名称を知る」までを前半の1時間として時間配分をするとよい。和服の雛型については、学校の実態によって生徒全員に作成させると一層理解を深めることが出来る。

本県には、大島紬をはじめ与論島の芭蕉布、  
ビーダナシ クズフ  
下甌島の芙蓉布、垂水の葛布等の優れた織物が残っている。郷土の織物の良さにもふれながら和服の基本的な着装を取り入れることによって、衣生活の指導の充実が図られることを期待している。

### 【引用・参考文献】

文部科学省『初等教育資料No.843』平成20年

青木志朗他著『家庭科図解集』1980 教育図書

(教職研修課)